

暖地型草地へのイタリアンライグラス追播試験
 田村総吉・佐野 洋・倉掛信男・中島知道・十川幸一
 (宮崎県総合農業試験場)

TAMURA, K., SANO, H., KURAKAKE, N., NAKASHIMA, T., TOGAWA, K.,
 Experiment on th Methods of Reseeding Italian-Ryegrass
 in Warm Season Pasture Sods.

追播イタリアンの品種の早晩性および収量性が、既存の暖地型牧草の翌春の生育、収量に及ぼす影響について検討したので、その概要を報告する。

1、試験方法

供試した暖地型牧草地(ダリスグラス、バヒアグラス)は造成初年目の草地である。

追播イタリアンの品種は極早生として山育38号、同39号(山口農試育成)、早生はワセヒカリ、晩生は山系6号を供試し、昭46年9月16日、10月20日に暖地型牧草を同日刈取後、無処理で種子量 0.4kg/aを散播した。施肥量はイタリアンの基肥として追播時にa当りN 1.0kg, P 2.5kg, K 1.0kgを、追肥は刈取後にN 0.5kg, K 0.5kgを施した。無追播区は早春にN 1.0kg, P 2.5kg, K 1.0kgを、追肥は刈取後にN 0.5kg, K 0.5kgを施用した。

2、試験結果および考察

1), イタリアンの定着・生育

イタリアンの定着、初期生育は両草地とも10月追播区がよかった。品種間では山系6号が定着、初期生育ともよかったが、気温の低下とともに山育38号が良好になった。

2), 暖地型牧草の翌春の生育

暖地型牧草の萌芽期は追播区が3月上中旬で無追播区より7~10日早く、かつイタリアンの定着数の多い区ほど早い傾向が認められた。また早春の生育は追播区が無追播区よりよく、各処理区間では両草地とも極早生系がよかった。しかし、その後の生育はイタリアンに抑圧され、

図1 追播時から翌春までに増加した莖数

山育38号 山育39号 ワセヒカリ 山系6号 無追播区

生茎数の低下を生じ、特にイタリアンが遅くまで残存した早生、晩生系ではこの傾向が顕著であった。

3), イタリアンとダリスグラスの収量

収量調査は草高50cm期で7月18日まで行なった。合計収量は両播種期ともイタリアンの極早生系追播区が多収を示した。ダリスグラスの収量は極早生追播区では無追播区より多収を示した。

イタリアンの名品種の収量がダリスグラス収量に及ぼす影響は、イタリアンの生育期間の短い極早生種ほどダリスグラスを被圧することによる悪影響が小さく、イタリアン品種の早晩性とダリスグラス収量との間には図2に示すように極めて密接な関係があった。

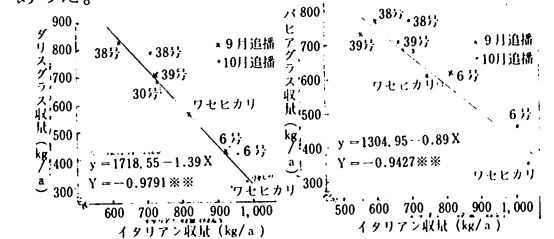


図2 ダリスグラス収量と イタリアン収量との関係

4), イタリアンとバヒアグラスの収量

バヒアグラスの収量はダリスグラス草地と同じく、イタリアン品種の極早生系ほどバヒアグラスを被圧することによる悪影響が小さく、多収を示し、イタリアン品種の早晩性とバヒアグラス収量との間には図3に示すように高い負の相関関係があった。

3、おわりに

暖地型牧草地へイタリアンの極早生種を追播することによって暖地型牧草の早春の生育、収量によい結果をもたらし、草地の年間平衡生産体制が確立されるものと思われた。